市役所通りエリア

■エリアの概要

県庁から市役所間の通りは、長崎市の中心的な業務地区であり、オフィスビル等の大規模建築物が集積しています。この通りは、長崎のまちが始まった場所でもあり、現在まで、メインストリートとして続く重要な通りです。

コンセプト：都市の格を感じる光

長崎市民が誇れるシンボルロードとして、風格ある夜間景観を目指します。

・道路は明るさにメリハリのある活動的な大通りとします。
・沿道建物については、周辺に配慮しながらファサード　（正面）の照明や１階部分への照明の存置を推奨し、通りの奥行き感を形成するとともに、歩道の安心感を高めます。
・植栽帯や街路樹については、演色性の良い光源でシンボリックに照らします。

… ランドマーク
… 公園・広場等
… 主要な動線
… ファサード照明や歩道への漏れ光となる照明を推奨するエリア
… ハイライトする交差点：路面照度 30 ルクス程度
… ハイライトする交差点：路面照度 20 ルクス程度
… 植栽帯のライトアップ

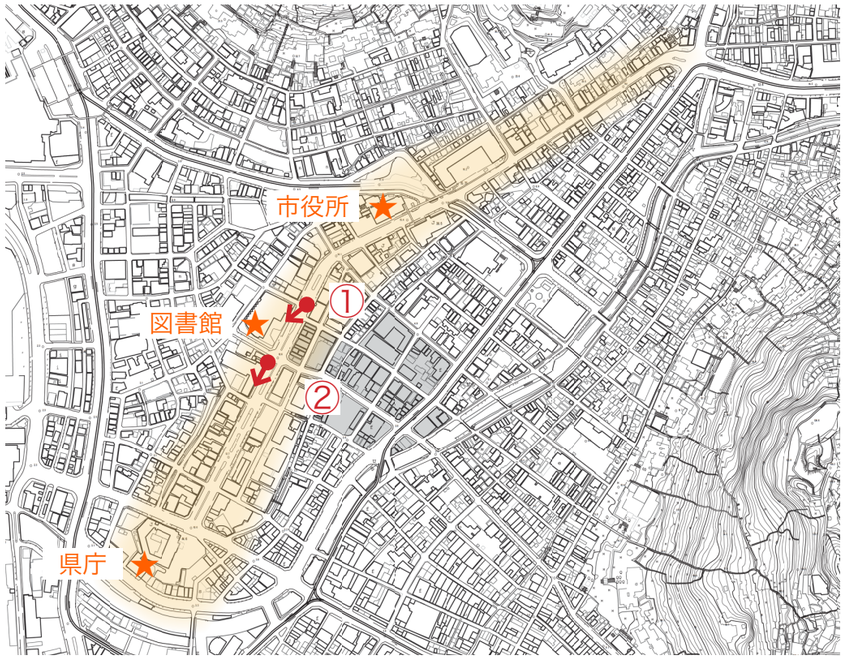
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-9. 市役所通りエリア

現状調査

■現状分析と課題

片側二車線の車道と広い歩道、シンボリックな植栽帯を持つシンボルロードとしての性格を持つ大通りです。夜間、市役所から県庁にかけての区間では、歩道照明が設置されていないことから、周辺のビルの灯りが消えると鉛直面の明るさも少なく暗い印象を受けます。多くの路線バスが通る区間でもありますが、通りの両側が暗がりでは、閑散とした印象を受けてしまうかもしれません。



★ … ランドマーク

♂ … 調査写真撮影箇所

①長崎市立図書館

②市役所通り

横断歩道には車道用のポール灯がしっかり配置され、十分な明るさとなっていたが、歩道と両側の建物が暗い印象のほうが強い。

鉛直面の明るさがなく、暗い印象の通りとなっている。

	現状調査から見た問題点		夜間景観向上のための基本原則
陰影の考え方		・交差点は十分な明るさだが、歩道用の照明が無く暗い	・交差点は 10-20Lx 程度、道路は 2-3Lx 程度、歩道 1-10Lx 程度を確保する
色温度		・ナトリウムランプは 2000K、街路灯の一部は 5000K	・3000-3500K 程度に整える
鉛直面輝度		・道の両側が暗く、町の奥行きがない	・沿道の建物や中央分離帯の植栽へのライトアップを行う
グレア対策		・街路灯に多少のグレアがある	・グレアに配慮された器具を使用する
演色性の優先度		・ナトリウム灯が多く演色性が悪い	・Ra80 以上を推奨する
器具		・大きな問題なし	・道路灯は配光制御された器具とする
オペレーション		・大きな問題なし	・特記事項なし

※ Lx（ルクス）とは：光によって照らされる面の明るさ（面積あたりの光束）
※ K（ケルビン）とは：光源の固有の色味を表す単位
※輝度とは：人の目に飛び込んでくる明るさ（面積あたりの光度）
※ Ra（アールエー）とは：光源による色の見え方の再現性を表す単位

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-9. 市役所通りエリア

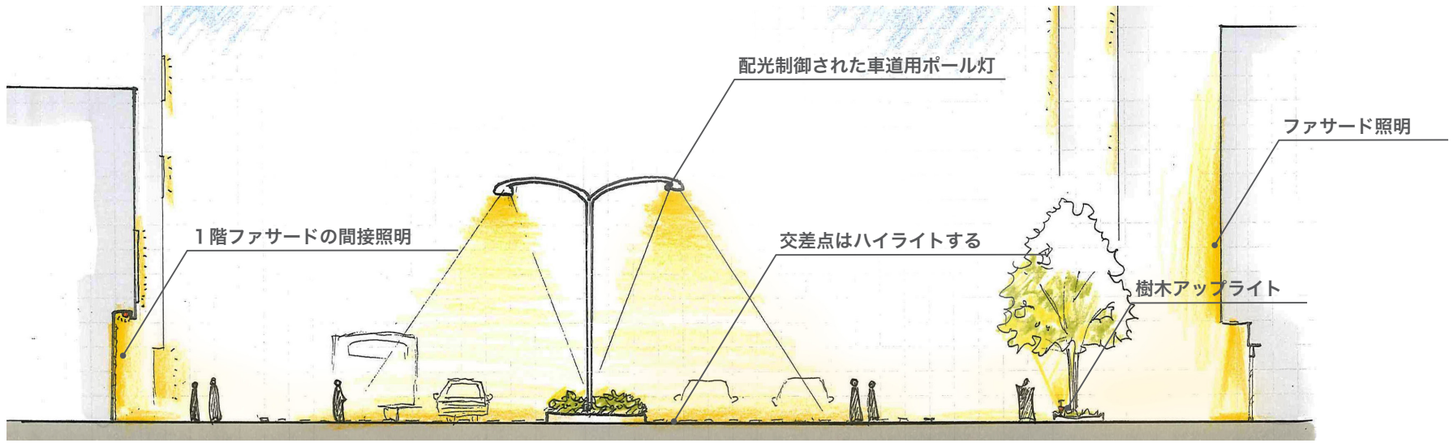
長崎市立図書館前　整備イメージ

現状

整備イメージ

■整備イメージについて

車道照明は、配光が制御されたポール灯とし、配置についても間隔が空きすぎないよう見直します。
通り両側の鉛直面の明るさに欠けているため、通りに面するファサードへのライトアップや歩行者のための漏れ光の存置を行うことを推奨し、公共施設では積極的に推進します。



断面イメージ（S = 1/200）

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-9. 市役所通りエリア

県庁坂通り　整備イメージ

現状

整備イメージ

■整備イメージについて

車道照明・歩道用照明ともに、夜間に安心して通りたくなるような適切な照度を確保し、灯具のグレアが無い器具とします。
立派な街路樹の緑を鉛直面の明るさとして見せるため、ポール灯の頭部に街路照明用の灯具と合わせて小型のスポットライト等を取り付け、効率よく樹木のアップライトを行います。

樹木を照らすスポットライトが付いている街路照明の事例（メルボルン）

適切な路面照度と鉛直面の明るさが確保されている街路の事例（東京）